

緊急・外出時などに対応

8年ぶりに赤字転落

小山都市開発「06年度決算

土地建物購入で特別損失

同社は市が資本金の85%を出資する第三セクターで、社長は小久保吉雄副市長。昨年度の売上高は約六億五千四百万円。

電子カルテ（背景）から携帯電話に入力された仮定のデータ



岩舟の江田クリニック

[岩井] 小野寺の江田クリニック（江田院長）は「のぼり」診療ルートの内容を患者の携帯電話に転送する「安心サービス」を始めた。患者が緊急災害時や外出先で他の医療機関を訪れた際、診断内容を開示し適切な処置を受けてもらいたいことが狙いで、珍しい取り組み。江田院長は「モバイル時代、医療界のイノベーションにつながるのではないか」と期待している。

リギー科を主とする同クリニックを開院した。同クリニックでは、電子カルテをパソコン上で管理、運営する。「電子カルテ」を導入。電子カルテは診断時の内容をデータ、グラフ化できるほか、処方せんや内視鏡写真の画像も保存できるなど利点も多い。

今回の「安心サービス」は、「カルテは本来患者さんのものである」(同クリニック)との考え方がある。電子カルテ根底にある。

カルテを患者の携帯へ

転送サービスが好評

の内容の必要部分を患者の携帯電話に赤外線通信で転送。診察を受けたたびに希望に添って内容が更新される仕組みだ。

安全面に関しては①受けたのパスワードで情報が保護される②同クリニックのパソコンと携帯電話間だけのやりとりのため情報が漏れにくい③父親の情報を電子が持つといった家族間で情報共有の場合は父親から署名、なつ印の承諾書をもじり、などを挙げている。

サービス開始後の利用

足利市の本年度採用試験

スポーツ志願19人

足利市は三十一日
市職員採用試験の申しきを締め切ったが、本度新たに設けた「スポーツ採用」の志願者は二千

人だった。市人事課は十五人一二十人を想定していたのです。申込の面接でも印象の良いスポーツマンが多かつ

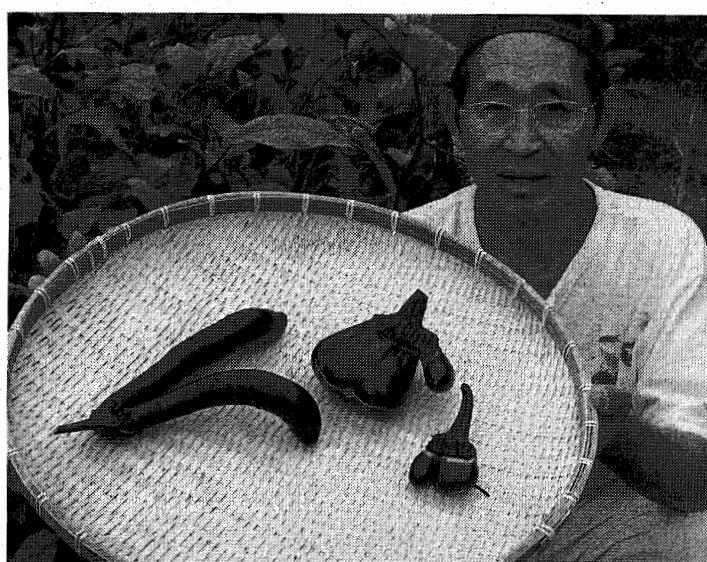
などを、行政職に別枠で採用しようと市が初めて実施した。スポーツマンなら忍耐力や協調性に優れているとの判断から

た」と期待を寄せていく。

者からの反応は「旅行先で同じ薬を何種類か出してもらひ助かった」「帰省中の学生が地元で通院、服用中の薬の内容を医師に見せて納得された」など、「好評を得た」といふ。このほか「院内では携帯電話の電源を切ることが原則のため、先方の医師に内容を見せる場合は一言を」と江田院長は気遣う。現在は、ドコモの

フォーマドームが対応となるが、他機種の対応も進めていく。江田院長は「薬の重複も含め、医療費削減にも役立つのは」と浸透を期待している。

“じゃんけんナス”収穫



グー、チョキ、パーのようなナスと栽培した渡部さん

少年健全育成

大河内演

これは文部省より送られたもので、だのは男性十五人、女性四人の計十九人。種目別では野球四人、陸上三人、水泳、ソフトボール、卓球各三人などで、中にはアリーダイングの経験者もいた。一方、市職員

【佐野】全国少年警察ボランティア協会の地域ふれあい事業に指定された「オカリナの里推進委員会」は、のびのびジャ